

表ベルナル博士の、漢方薬の研究は、東洋からの近代文明への貢献になるといふ説は格調高いものである。(四)漢方医学、中医学というより、漢方薬、中薬に関して議論されたこと。(五)日本ではすでに漢方薬研究を行う臨床施設があり、国内委員会もすでにできているなどの事実誤認があったこと、などである。

今回は、この討議について紹介する。今後、中国、日本、それぞれの国でのこの会議にのぞんだ背景、時代状況、その後の経過等について報告する予定である。

(東京医科歯科大学・難治疾患研究所／北里研究所
附属東洋医学総合研究所・医史文献研究室)

大東亜戦争における野戦病院

黒澤嘉幸

大東亜戦争は日本がその総力を傾け尽した戦いであった。昭和二十年八月の終戦時までに軍の動員した歩兵師団の数は一六九師団に及んだ。国運を賭して戦ったといわれる日露戦争でさえ、動員した師団は一三個であったことを考えれば、その規模の大きさが計り知られるのである。

また、その戦場も中国、満州の大陸、マレー、ビルマ等の南方諸国、樺太、千島、アリューシャンの北方諸島、南部、中部太平洋の島嶼と広範な地域に及んだのである。

もともと、師団は「戦略単位」と呼ばれ作戦の中核となるものである。このため、師団は画一ではなく、作戦時の任務、戦場の地域特性により、異なる編制をもつ師団が編成された。本大戦下で創設された師団の型は次のとおりである。

一 三単位師団

昭和十二年、極東ソ連軍の増強に対応するため、歩兵四個連隊を基幹とする師団を、三個を基幹とする師団に変更した。

二 警備師団

戦場が拡大すると、戦闘地域と占領地域が分れる。この占領地域を警備する師団が創設された。

三 海洋師団

昭和十八年、中部太平洋海域の島嶼防衛のため創られた師団である。

四 沿岸師団

昭和二十年二月以降、本土決戦のため沿岸等に配置されたもので、機動性が少なく、もっぱらその地域を死守する任務をもった師団である。完結しないで終戦を迎えたものが多かった。

野戦病院は師団の救急治療の中核となる医療機関である。したがって、その本体である師団の編制が改正されれば野戦病院の編制も改正されるのは当然の成り行きである。そのため、戦時中、新しい師団を創出することに形式の異なる野戦病院が生み出された。

しかしながら、これらの野戦病院の特性について調査されたものはない。

昭和十二年以前の師団内の衛生機関（治療後送部隊）は隊付部員―師団衛生隊―野戦病院（四個）の体系であった。

（一）隊付部員

隊付部員は隊に属して応急手当を行うものである。

（二）衛生隊

衛生隊とは第一線から傷者を担架で運んで収容し、応急治療を施した後、さらに担架または患者車で傷者を野戦病院まで後送する部隊である。師団長に直属する。

（三）野戦病院

野戦病院は師団に四個設置され、患者の応急治療を完成する機関で、四個のそれぞれは師団長に直属していた。

昭和十一年、軍では師団の指揮単位を少なくし、その運用を簡明にしようとする考え方が強まっていた。たとえば、昭和十一年、参謀本部員と軍医学校員との会合の際、参謀本部側から衛生隊と野戦病院の統合化が提案されている。この案は、昭和十五年の作戦要務令改正にあたって、

衛生隊と野戦病院を統括した新しい「衛生隊」を規定する形で実現している。しかしながら、昭和十六年十二月、大東亜戦争が勃発したため、施行に至らず、多くの師団は従来の型で戦場に送られた。その後、昭和十八年以降の新師団創出にあたって、前述の案が色濃く滲んだ野戦機関が創出されるようになった。

(一) 警備師団野戦病院

師団に一つの野戦病院で、後送・治療能力を有する。

(二) 海洋師団野戦病院

師団に一個で、三個野戦病院(従来型)の能力を有する。

(三) 沿岸師団野戦病院

師団に一つで、従来型と大同小異の野戦病院である。

このように、異なる野戦病院が各種編成されたが、昭和二十年八月時点において、編成完了したもの、玉砕した病院、編成完結途中のものを含め、その総数は二九七野戦病院に及んだ。

(埼玉県所沢市)

京都における眼科流派と秘伝書

奥沢康正

江戸時代の眼科諸流派について、小川剣三郎『日本眼科学史』、福島義一『日本眼科全書(眼科史)』、中泉行正『明治前日本眼科史』、富士川游『富士川游著作集』並びに、『京都大学図書館富士川本目録』、『東京大学総合図書館古医学書目録』、『研医学会図書館蔵書目録』ほかの資料から採集した六七流派について、各流派毎に始祖、主たる活躍地、秘伝書名、秘伝書所在地、寺院との関連の有無について調べた。とくにこのうち京都に関連の深いものについて述べる。

また、秘伝書については、徹底した秘密主義の時代から、時代の変遷とともに平易な文章表現の医学書に発展される手術法、治療法などにより、しだいに、派、流の独占する秘伝を維持できなくなる歴史の流れの中で、各流派の消長とそれぞれの秘伝書の特徴について考察する。

(京都府京都市)